

このEE-Neが完成しますと、q 実大規模の震動破壊実験の記録を用いて、過去の震動破壊実験を短時間で再現でき、w 実大規模の震動破壊実験をベースとした、異なる条件の構造物耐震シミュレーションを迅速に実施すること

によって、e 耐震性の高い構造物の設計コストを大幅に削減することなどが可能になり、技術革新に寄与することが期待されています。

(プロジェクトディレクター  
大谷圭一)

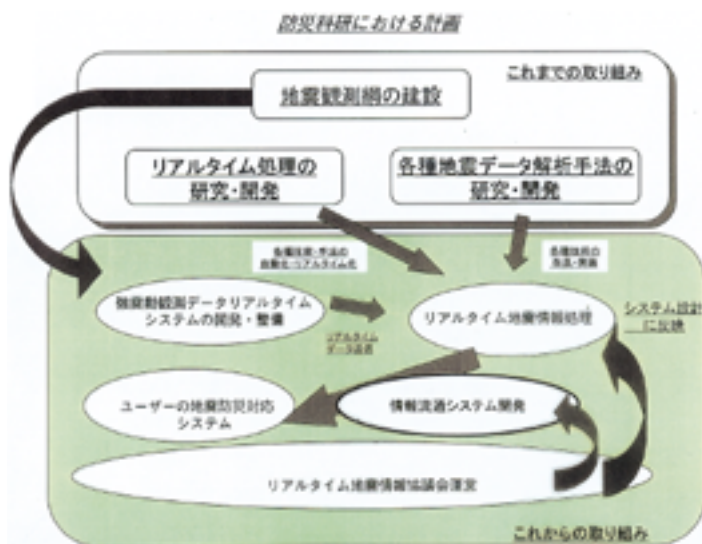
## リアルタイム地震情報の伝達・利用に関する研究

地震災害のもたらす悲惨さ、経済的損失の大きさは、先日のインドで起きた大地震による被害で改めて認識させられたところです。日本では、阪神・淡路大震災のあと、地震に関する研究・調査を強力に進めるため、基盤的な観測などに大きな努力がはらわれ、地震災害のメカニズムの解明や災害予測・

予知へ着実な成果を上げつつあります。

これらと平行して、地震発生時に一般国民や防災機関等の災害軽減に直接役立ち、具体的な行動に結びつく研究・開発に、平成 13年度から新たに取り組むことにしました。すなわち、研究の成果、地震データを、国民一人ひとりの生命の安全や安心に結びつく情報としていこうというものです。防災に係わる機関が必要とするリアルタイム地震情報・データを、必要とするタイミングで伝達し、利用していただくことが目的です。私たちは、お使いいただく皆様と一体になって、この計画を進めようとしています。地震災害をできるだけ少なくするため、積極的な参加をお願いいたします。

(プロジェクトディレクター  
藤縄幸雄)



## 地震動予測地図作成手法の研究

地震調査研究推進本部では、「地震調査研究の推進について - 地震に関する観測、測量、調査及び研究の推進に

ついて - 」（平成 1年 4月）において、今後 10年間程度で、国として取り組むべき地震調査研究として、地震動予測